

方面	ZEPPIIN! カップ予選結果 (1面)
1 師団	防災訓練参加 (3面)
12 旅団	対空実射訓練 (4面)
1 施設団	能力構築支援 (5面)
関東補処	南トラ実動訓練 (5面)



令和5年10月25日 第1065号

総監統率方針「強靱な東部方面隊の創造」  
総監要望事項「万事作戦を基準」

陸上自衛隊東部方面隊広報誌  
発行所：方面総監部広報室  
住所：東京都練馬区大泉学園町  
専用線：8-37-2446



「白身魚のふわとろチリソース」、富士駐屯地「富士フライ御膳」秘伝のWタルタルソースを添えての4コ献立が選ばれ

# ZEPPIIN! カップ予選結果 板妻・三宿・横浜・富士が本選へ

方面隊は8月24日から9月29日までの間、令和5年度東方ZEPPIIN! カップ予選を実施した。本事業は魚料理の献立のバリエーション化及び魅力化を狙いとし、隊員に喜ばれる「安くて美味しい魚料理」をテーマとし、東方面内33コ駐屯地が創意を凝らしオリジナル献立を作成した。

予選は東方面内各駐屯地の所属隊員による隊員投票、部外栄養専門機関による献立審査及び装備部需品課による書類審査により、板妻駐屯地「深海魚バーガー」わさびタルタルソース、三宿駐屯地「SABAの和風油そば」、横浜駐屯地「白身魚のふわとろチリソース」、富士駐屯地「富士フライ御膳」秘伝のWタルタルソースを添えての4コ献立が選ばれた。なお隊員投票においては、部隊訓練等多忙の中、東方面内の隊員が士気に直結する給食に大きな関心を持ち、3万票を超える投票があった。令和5年度方面最優秀献立は12月15日、朝霞駐



予選第2位 三宿駐屯地  
「SABAの和風油そば」



予選第1位 板妻駐屯地  
「深海魚バーガー わさびタルタルソース」



予選第4位 富士駐屯地  
「富士フライ御膳～秘伝のWタルタルソースを添えて～」



予選第3位 横浜駐屯地  
「白身魚のふわとろチリソース」

屯地における代表隊員等の食味審査により決定する。

各駐屯地献立は  
東方公式ホームページ  
YouTubeで掲載中  
QRコードから視聴可能



## 自衛隊のリアルを発信するため描写研修会が実弾射撃を研修



F Oの研修



F H - 70実弾射撃の研修



研修後の記念撮影

方面隊は9月25日・26日の両日、東富士演習場及び滝ヶ原・富士駐屯地において、自衛隊描写研修会からの依頼に基づき東部方面特科連隊の155m榴弾砲(FH-70)実弾検閲の研修を支援した。

初日は東富士演習場において射撃構成、FH-70非実射訓練の研修及び射撃訓練の概要説明を行った。2日目は実弾射撃訓練の他、測量、陣地進入、射撃準備、射撃指揮等の研修を行った後、富士駐屯地で装備品等を研修した。研修者は射撃訓練だけでなく、真剣な隊員の姿、装備品及び携行品に至るまでそれぞれ視点で研修した。

研修終了後、参加者は「ネット上の切り取られたい射撃映像ではわからない射撃前後の緊張感、装備品の細部、隊員の細やかな動きや会話、実射ならではの音・衝撃・匂いを経験し、貴重な情報資料を収集することができた」「前進観測班(FO)の射撃要求、射撃指揮班(FDC)の射撃命令の『本物』を間近で見聞きでき感激した」などの感想があった。

※自衛隊描写研修会  
平成30年4月に発足し、漫画家、脚本家、イラストレーター、アニメ・ゲーム業界関係者等で構成され、自衛隊の各種行事・訓練等の研修を通じ、その成果を作品等を通して広く周知するとともに、自衛隊の募集・援護事業等に貢献することを目的とする任意団体

# 中隊長等集合訓練で識能向上 部外講師によるハラスメント教育も



部外講師を招いたハラスメント教育

方面隊は9月6日、朝霞駐屯地において方面直轄部隊の中隊長等29人に対し、令和5年度第2回方面直轄部隊中隊長等集合訓練を実施した。

本訓練は陸上自衛隊及び東部方面隊の重視する施策等について教育して必要な知識を付与するとともに、職務に係る討議等により資質を涵養し、中隊長等の職務遂行能力を図ることを目的として



スライドとジオラマを活用した行動関係法令教育

訓練は施策等教育、防犯講話、ハラスメント防止教育及び行動関係法令教育について、各担当部署から教育を実施した。また教育資料を事前配布

している。訓練は施策等教育、防犯講話、ハラスメント防止教育及び行動関係法令教育について、各担当部署から教育を実施した。また教育資料を事前配布

検討等を通じてハラスメント防止に係る基礎知識を付与するとともに、コミュニケーション能力向上に資する傾聴の必要性について認識を深めた。訓練修了後、参加者から「中隊長の責務の重大さを改めて感じた。また意見交換においては同じ悩みを持つ中隊長を認識し『自分だけではなかった』と思うことができた」と思っている。さらに「部隊の精進に尽力していかねばならないと感じた」「中隊長業務を行う上での基本的な知識を修得できた。引き続き最新の情報を共有していただきたい」などの意見があった。

## 部隊の特性踏まえ訓練 行動関係法令の普及を目指す



GCSS訓練を視察する總監

方面隊は9月25日から27日までの間、朝霞駐屯地において令和5年度後期行動関係法令集合訓練を実施し、方面直轄部隊の特性を踏まえた教育

等運用・訓練担当者等28人、訓練陸曹等の研修者14人を対象に、法令に関する識能向上の他、各部隊の特性を踏まえた教育から構成された。参加者は教育参加前に訓練計画を作成し、教育間は教官として被教育者役の他参加者に対し指導・AARを行い部隊での教育実施に自信を得ていた。また10月4日には朝霞駐屯地指揮所訓練支援センターにおいて方面法務官及び師団法務官等合同によるGCSSでの武器使用訓練を実施し、指導

育訓練への法的要素の取り込み促進のため指導法教育を重点的に行った。本訓練はそれぞれの訓練参加者が、自隊所在駐屯地と見立てたジオラマを活用した訓練及び武器使用時の状況判断を演練する簡易的なGCSS訓練から構成された。参加者は教育参加前に訓練計画を作成し、教育間は教官として被教育者役の他参加者に対し指導・AARを行い部隊での教育実施に自信を得ていた。また10月4日には朝霞駐屯地指揮所訓練支援センターにおいて方面法務官及び師団法務官等合同によるGCSSでの武器使用訓練を実施し、指導

要領に関して意見交換を行い方面内の法務教育の斉一化を図った。この際、被教育者としての東方部隊の支援を受け、隊員の行動に係る状況判断能力を向上させた。加えて本訓練間、總監の視察を受けた。

總監は「昔は敵しか存在しない想定が主であったが、本訓練は法的権限といったルールを覚える第一段階としては非常に良い訓練である。一方で、敵の宣伝（心理戦）等も考慮した抑制的な武器使用も意識しない」と部隊行動に影響を及ぼす場合もある。今回得られた教訓を次の訓練にも反映させよ」と指導した。



グループ討議で発表する中隊長

## 広報センターイベント

### ヘリ体験搭乗に離発着見学ツアーを楽しむ



ヘリコプターに搭乗する来館者



ヘリコプターを撮影する来館者



搭乗前の安全教育



埼玉地本が設置した募集ブース

広報センターは9月17日、陸上自衛隊への関心及び理解の促進を図ることを目的に、ヘリコプター体験搭乗を実施した。ヘリコプター体験搭乗は東部方面航空隊の支援を受け、多用途ヘリコプター「UH-1」2機によ

り行われた。当選した約1000人は、安全教育の後、ヘリコプターに搭乗し東京都内上空を飛行して空からの景色を楽しんだ。その他、ヘリコプター体験搭乗とは別に、ヘリコプターの近くで撮影できる見学ツアーを設定し、約300人の来館

者が迫力あるヘリコプターの離発着を見学した。ヘリコプターに搭乗した来場者からは「空からの眺めが最高だった」また離発着を見学した来場者からは「初めてヘリの離発着を間近で見た。(タウンウォッチユの)

風がすごく迫力があった」と感想があった。また本イベントに合わせて自衛隊埼玉地方協力本部が募集コーナーを設置し、14件の募集情報を得ることができた。広報センターは今後もさまざま

なイベントを準備し、より多くの方々の来場及び募集情報の獲得を期待している。なお各種イベントの案内については、東部方面隊ホームページをご覧ください。

# 第1師団

## 関東大震災100年 災害の教訓を生かす 「続ける備え」関係各機関との連携強化

### 九都県市合同防災訓練

師団は8月27日から9月3日までの間において、各所で行われた九都県市合同防災訓練に参加し、関係機関等との連携強化及び地域住民の防災意識の向上を図った。本訓練は大地震などの甚大な災害発生に備え、政治・経済の中枢機能が集積する九都県市（埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県・横浜市・川崎市・千葉市・さいたま市・相模原市）において毎年合同で行い、1923年に発生した関東大震災から100年の節目となる今年には、例年より大規模な訓練が実施された。

第32普通科連隊は8月27日、志木市役所（埼玉）で実施された九都県市防災訓練（埼玉会場）・令和5年度埼玉県・志木市民総合防災訓練に参加した。

本訓練は東京湾北部を震源とするマグニチュード7.3、震度6弱の地震が発生したとの想定で実施された。32普通連は倒壊家屋からの救出救助訓練

第1後方支援連隊及び第1飛行隊は9月1日、相模総合補給廠一部返還

地（神奈川県）で実施された九都県市合同防災訓練（中央会場）に参加した。

本訓練は相模原市直下を震源とするマグニチュード7.3、震度6強の地震が発生したとの想定で実施された。1後支連は消防及びDMAT（災害派遣医療チーム）と連携して救助された被災者の処置等を行い、1飛はヘリによる孤立者の輸送訓練を行った。

本会場には内閣総理大臣、関係閣僚等が来場し、1後支連が開設する救護所の前で自衛隊と消防・医療関係機関が連携して救助活動をする場面を視察された。また参加隊員は訓練終了後、防衛大臣から激励の言葉を受けた。さらに総監より優秀隊員として1後支連衛生隊の平野3曹及び渡邊士長がチャレンジコインを授与された。

また1後支連及び1飛は9月2日から3日までの間、久米川都営住宅跡地（東京都東村山市）で実施された九都県市合同防災訓練（東村山会場）



32普通連による倒壊家屋からの救出救助訓練（埼玉会場）



1後支連による関係機関と連携した医療救護活動（中央会場）



1飛のホイストによる医療救護活動（東村山会場）

## 1師団の音楽まつり 第39回ふれあいコンサート

第1音楽隊は9月5日、板橋区立文化会館大ホールにおいて、招待者、近隣住民等の幅広い年齢層を対象に、1師団に対する理解と親近感（ふれあい）の醸成及び地域との連携強化を図り、また防衛基盤の育成に資することを目的に、第39回ふれあいコンサートを実施した。

本コンサートは2部構成で実施され「ふれあい」にふさわしくクラシカルなコンサートではなく、らっば隊（第1普通科連隊）、朝霞振武太鼓（朝霞駐屯地）との共演を盛り込み、1師団の「音楽まつり」的な曲目のプログラムで構成された。

第1部は立奏で行われらっば隊及び太鼓隊との共演を含む計6曲が演奏され、自衛隊の躍動感と統制の美しさにより来場者を魅了した。

第2部では一変して座奏により、ミュージカル音楽を中心に親しみある楽曲5曲が隊員の楽器ソロ及び合唱による多彩なステージ演出により、来場者は美しい旋律と感動の渦に包まれた。

ファイナーレは来場者のアンコールに応え「どこまでもいこう」（作詞・作曲 小林 亜星）を出演者全員で合唱、拍手と歓声が鳴り響き、盛況のうち幕を閉じた。（写真）



師団は8月23日から29日までの間、練馬駐屯地において、令和5年度第1師団観測指導者集合訓練を実施した。

東部方面特科連隊の編に伴う第1特科隊廃止により、今年度から初めて司令部にある火力調整部が本訓練を担当した。

本訓練は令和元年度から4年度に実施した師団

師団は8月23日から29日までの間、練馬駐屯地において、令和5年度第1師団観測指導者集合訓練を実施した。

東部方面特科連隊の編に伴う第1特科隊廃止により、今年度から初めて司令部にある火力調整部が本訓練を担当した。

本訓練は令和元年度から4年度に実施した師団

## 火調部として初の観測指導者集合訓練 各種観測能力の向上を図る



射撃の観測を訓練する参加隊員

師団は8月22日から9月9日までの間、練馬駐屯地、朝霞基本射場及び王城寺原演習場において令和5年度師団狙撃（基礎）集合訓練を実施し、狙撃手として必要な知識及び技能を修得させ、各普通科連隊の対人狙撃の射撃速度を向上させた。（写真）

参加隊員は対人狙撃射撃技術において、師団の定める到達基準を満たした者のみが指定される「師団狙撃指定銃手」を目指し訓練に励んだ。当該指定銃手の認定は10月末に行われる予定であり、本紙でも紹介する。

## 一都六県の空に隙なし 近・短SAM対空実射訓練

師団は8月2日から29日までの間、静内対空射場（北海道）で、第1高射特科大隊長を担任官として、対空戦闘能力の向上を図るとともに、対空実射に係る練度を評価することを目的に、81式短距離対空誘導弾（短SAM）及び93式近距離地

対空誘導弾（近SAM）の実射訓練を実施した。

1高大は2日からの長距離機動訓練を皮切りに、高射中隊（短SAM）は帯広及び真駒内駐屯地に於いて、指揮情報中隊（近SAM）は東千歳駐屯地に到着後、それぞれ射撃準備及び模擬実射訓練を4日から14日までの間で行い、実射訓練態勢準備に万全を期した。

15日に静内対空射場に集結し、引き続き25日までの間、高射学校が編成する射撃支援隊による実射訓練の評価を受けた。

実射訓練においては、短SAM及び近SAMの器材を迅速・安全・正確に展開し、射撃準備を整えると、射撃場内から発射された高速標的機を各射手が捜索、早期に発見



短SAMの射撃

## 師団狙撃指定銃手を目指して 令和5年度師団狙撃（基礎）集合訓練

師団は8月22日から9月9日までの間、練馬駐屯地、朝霞基本射場及び王城寺原演習場において令和5年度師団狙撃（基礎）集合訓練を実施し、狙撃手として必要な知識及び技能を修得させ、各普通科連隊の対人狙撃の射撃速度を向上させた。（写真）

参加隊員は対人狙撃射撃技術において、師団の定める到達基準を満たした者のみが指定される「師団狙撃指定銃手」を目指し訓練に励んだ。当該指定銃手の認定は10月末に行われる予定であり、本紙でも紹介する。

第12旅団

# 短・近SAM要撃成功

## 令和5年度師団等対空実射訓練



93式短距離地对空誘導弾の射撃



81式短距離地对空誘導弾の射撃

第12高射特科隊は8月7日から25日までの間、北海道静内対空射場において実施された令和5年度師団等対空実射訓練に参加し、81式短距離地对空誘導弾（短SAM）及び93式短距離地对空誘導弾（近SAM）の実射訓練を実施した。

本訓練は12高射の短SAM小隊及び近SAM小隊の対空戦闘能力を評価・判定するとともに、対空射撃練度の進歩・向上を促す目的で行われた。12高射は「要撃成功」の目標を掲げ本訓練に臨んだ。射撃を行う両小隊は、北海道内で転地訓練を実施して練度の完整を図るとともに、第12後方支援隊第2整備中隊高射直接支援小隊の支援を受け、実射器材等の点検整備を行う等、対空実射訓練に万全を期した。射撃は19日に実施し、両小隊とも「要撃成功」の成果を獲得した。評価についても、12高射（改編前の部隊である第12高

射特科中隊からの成果含む）は、過去5年で短SAM及び近SAMは、最も高い評価を得ることができた。

12高射は引き続き「一撃必墜」の精神で来年度の対空実射に向け、さらなる練度向上に努めている。訓練参加隊員のコメント短SAM小隊発射班長・山本3曹

「要撃成功・優秀を目指し、猛暑の中厳しい訓練を小隊一丸となって、やり抜く事ができた。この経験を糧に今後もおこる事なく、さらなる高みを目指して訓練に励みたい」

近SAM小隊発射班長・方波見2曹  
「4月から練度を重ね、目標の『昨年度より良い評価を獲得する』『要撃成功』を達成することができた。訓練で得た成果を反映し、小隊の精強化に貢献していきたい」

## 旅団レンジャー教育 記録的な猛暑との闘い

旅団は8月21日から新発田駐屯地、大日原演習場及び同周辺地域において第30普通科連隊長を担任官とし、令和5年度旅団レンジャー集合教育（養成）を実施中である。今年の新潟県下越地方は、平均気温が非常に高く記録的な猛暑となっており、レンジャー学生は不撓不屈の精神力で基礎訓練を実施中である（9月25日現在）。9月18日は大日原演習場において、学生たちはアップダウンの激しい演習場内を激走する体力調整の10マイル走が行われた。学生たちが力を振り絞って発する「レンジャー」の掛け声が演習場内に響きわたった。学生は今後10月上旬から開始される行動（想定）訓練に向け、さらには、厳しい訓練にまい進するとともに、己自身と闘っていく。



10マイル走で駆け抜ける学生と助教



体力調整を終えて報告する学生

## 楽しい楽曲で聴衆を魅了 五泉市における演奏会



満員となった会場で演奏をする12音

第12音楽隊はさくらんぼ会館イベントホール（新潟県五泉市）において派遣演奏を行い、五泉市が主催する演奏会を支援した。本派遣演奏には約600人が訪れ、また8月に12音楽隊長として着任した富田1尉が指揮する初の演奏会となった。演奏した曲目は、全日本吹奏楽コンクール課題曲、大河ドラマやアニメで馴染みのあるポピュラーな曲を中心に11曲を披露し、子どもからお年寄りまで楽しめる内容で来場者を魅了した。なお自衛隊新潟地方協力本部加茂地域事務所内の、演奏会のリハール風景を地元中学校吹奏楽部の生徒に見学してもらおう等、募集活動にも協力した。

## 令和5年度第2回中隊長等集合訓練 管理者としての識能及び指導能力を向上



質疑応答の様子



熱い議論が交わされたグループ討議

旅団は8月29日・30日の両日、相馬原駐屯地において旅団隷下各部隊中隊長等に対し、令和5年度第2回中隊長等集合訓練を実施した。

本訓練は中隊長等に対して、人事、情報、訓練、物品管理等に関する教育により、管理者としての識能及び指導能力向上を図る目的で行われた。旅団長は訓話で要望事項である

「即応力の強化」「安全・健全」に関する中隊長等への期待などを話した。また部外講師によるハラメント防止教育も行った。



## 12ヘリ 高射特科隊との協同訓練 近SAMを機外搭載

懸吊のためのフック結合

第12ヘリコプター隊は8月31日、相馬原演習場において第12高射特科隊と協同訓練を実施した。本訓練は、近SAMの機外搭載を行うための進入・フック結合から離陸の懸吊要領と、接地・切り離し・離脱までの卸下要領を演練した。12ヘリは本訓練を通して、他部隊との連携をさらに深めるとともに、飛行隊の戦技能力の向上を図った。

## ゴールド Good Jobカードを授与 隊員の模範となる功績を称える



第5級賞詞を授与された渡邊2曹

第2普通科連隊本部管理中隊の渡邊2曹は、旅団狙撃手集合訓練教官、部隊スキー指導官、冬季遊撃集合訓練、レンジャー助教及び演習場整備優秀隊員としての功績により、ゴールドグッドジョブカードを獲得して、旅団長から第5級賞詞を受賞した。受賞した渡邊2曹は「表彰ありがとうございます。引き続き、中隊長要領事項である『為すべき時に為すべきことを為せ』を具現化できるよう、日々の職務に取り組み、部隊の精強化、任務遂行に寄与していく所存です」と今後の意気込みを語った。現在渡邊2曹は、豪州射撃競技会等の経験を生かし、連隊において狙撃手の指導者として後輩育成に努めている。 \* Good Jobカード 旅団独自で定めている職務意欲高揚施策であり、隊務全般において「陰日向なく隊務に精励し他の隊員の模範となる隊員」に対し、旅団長及び最先任上級曹長を通じて付与するもので、複数回の功績が認められた者にはゴールド賞に併せて第5級賞詞が旅団長より授与される。



狙撃手に教育をする渡邊2曹(左側の立姿)

第1施設団

# 東ティモール能力構築支援 実践的な交通作業を教育

施設団は8月22日から9月30日までの間、豪陸軍が主催する東ティモール民主共和国における能力構築支援「ハリィ・ハムトゥック」に、団隷下部隊から第101施設器材隊特殊器材中隊長 古賀3佐以下8人の要員を派遣した。

成30年から5回目の派遣になる。今年度担任した第101施設器材隊は、東ティモール国防軍に対し、交通作業を教育するに当たり、過去の教訓を踏まえた準備訓練を行うとともに、派遣間は東ティモール国防軍の被教育者に第1施設団の施設技術がしっかりと根付くよう実習を主体とした効果的かつ質の高い教育を実施した。

## 派遣隊員紹介

- 第101施設器材隊
- 3佐 古賀 大智
  - 2曹 鈴木 雅裕
  - 2曹 大野 隆也
  - 2曹 濱崎 誠
  - 3曹 高橋 功照
  - 3曹 村山 将吾
  - 3曹 田上 孝也
- 第1施設団本部付隊
- 3曹 宮原 左也



測量について教育する隊員



東ティモール文化研修(地下壕での記念写真)



メティナ口基地内での鉄筋コンクリート道路構築

またインド太平洋地域の平和と安定のため、平成27年度から継続的に実施されており、施設団としての派遣は、初回の平和構築支援として行われている。

## 陸曹候補生・一般幹部候補生(部内) 後継者を育成し人的基盤を充実

施設団は9月7・8日の両日、令和5年度後期陸曹候補生選抜2次試験を実施した。

1次試験に合格した団隷下部隊の受験隊員は、2次試験において口述試験・術科試験(分隊教練)

を受け、これまで零細時間を活用して練成してきた成果を發揮し、合格するため全力を尽くした。

また9月11日から15日までの間、勝田駐屯地でも実施された第105期一般幹部候補生(部内)2次試験を前に2次試験受験資格者に対して集合訓練を実施し、試験本番に向けての対策を講じた。

施設団は、今後も部隊において積極的に後継者を育成し人的基盤の充実と発展に寄与していく。



口述試験



術科試験



口述試験練成(一般幹部候補生)

## 関東補給処

### 令和5年度南トラ実動訓練

## 実動訓練で態勢の進化を図る

関東補給処は9月4日から8日までの間、霞ヶ浦駐屯地、駒門駐屯地等において、令和5年度南トラ実動訓練を実施した。本訓練は大規模震災対応における兵站組織の構成・運営について演練し、その能力の維持、向上を



補給品の卸下作業中の隊員



概成した補給品集積地域

図ることを目的としている。9月4日、日向灘を震源とする最大震度7の地震が発生したという想定のもと、本処、各支処等は方面前進兵站基地(富士FMA)を開設するたため、駒門駐屯地までの経路及び現地確認のため偵察班を速やかに派遣した。偵察班が現地等の安全確認を行った後、富士FMA構成要員は各所在駐屯地から駒門駐屯地に向け前進を開始した。隊員は駒門駐屯地到着後、富士FMA指揮所を立ち上げつつ、補給品集積場を開設するため夜を徹して天幕設営作業等に当たるとともに、フォークリフトを使用して補給品の受け入れを行った。5日以降も天幕設営作業、糧食・補給品の受け入れ等を継続しつつ、燃料交付地域においては燃料を交付する等、支援態勢を完結した。

## トライアスロンで給水支援 大会成功に大きく貢献



給水支援に当たる隊員

霞ヶ浦駐屯地は9月17日、関東処所属隊員3人を派遣し、茨城県土浦市で開催された「第4回霞ヶ浦トライアスロンフェスタ」を支援した。本大会は霞ヶ浦及び土浦市内にコースが設定されているトライアスロンで、今年で4回目の開催となる。

霞ヶ浦駐屯地は9月17日、関東処所属隊員3人を派遣し、茨城県土浦市で開催された「第4回霞ヶ浦トライアスロンフェスタ」を支援した。本大会は霞ヶ浦及び土浦市内にコースが設定されているトライアスロンで、今年で4回目の開催となる。

霞ヶ浦駐屯地納涼大会  
近隣住民との連携強化  
霞ヶ浦駐屯地は8月28日、納涼大会を実施した。納涼大会は4年ぶりの開催となり、隊員家族はもとより、多くの地域住民が来隊した。やぐらやぼんぼり、野外売店、また部外演舞団体等が会場の一体感を醸成に寄与し、隊員は地域住民との連携を大いに強化した。

霞ヶ浦駐屯地は9月2・3日の両日、茨城地方協力本部からの支援依頼を受け、つくば市内の商業施設「イーアスつくば」において行われた防災イベントで装備品展示を実施した。本イベントは「防災の

## イーアスつくばで装備品展示 災害派遣等任務を紹介

大型トラックでけん引した1トン水タンクトレーラ及び野外炊具1号を、

災害派遣等任務を紹介



やぐらを中心に踊る隊員と来隊者

特科連隊

# 連隊新編後、初の訓練検閲

## 射撃練度発揮して良好な成果



43kmを行進する受閲部隊

東部方面特科連隊は9月19日から27日までの間、東富士演習場において第1大隊訓練検閲を実施した。本検閲は連隊新編後、初の検閲であり、これまで計画的かつ段階的に積み上げてきた指揮幕僚活動、火力戦闘及び特科射撃の練度を評価・判定し、今後の進捗・向上の資となった。

受閲部隊は19日から20日にかけて、約43キロメートルの徒步行進を実施した。行進に遅れる隊員



射撃準備をする隊員

にも最後まで声をかけ合っている、時には余力のある者が背のうを預かる等相互に助け合い、執念をもって完歩した。

受閲部隊は徒步行進後の21日から23日までの間、第2次第1師団演習の場において師団に配属された増強特科大隊として

て行動した。受閲部隊は師団唯一の特科部隊として第1師団司令部及び第32普通科連隊と綿密に火力調整を行うとともに、状況に適合するよう適切に部隊を運用し任務を達成した。

戦術行動後の27日、15.5m榴弾砲(FH-70)の実射検閲を実施した。受閲部隊はこれまで積み上げてきた射撃練度を遺憾なく発揮して、精度・速度ともに良好な成果を得た。

東部方面特科連隊は今回の検閲で得た成果を生かし、引き続き、連隊の戦力化完整に向けまい進する。

シ通群

# 南海トラフ地震対処に備える

## 令和5年度兵站実動訓練に参加



システム通信回線を構成する隊員



前方支援地域の状況を確認する群長

東部方面システム通信群は9月4日から8日までの間、令和5年度兵站実動訓練に参加した。本訓練では方面前進兵站基地及び前方支援地域

の開設・運営に必要なシステム通信回線の構成を実施した。特に前方支援地域における回線構成・障害対処を航空自衛隊の隊員と連携しつつ、速やかに実施することができ、災害対処計画の実効性向上の資を得た。

群長は方面前進兵站基地及び前方支援地域に展開したシステム通信回線の構成・維持・運営状況を確認・指導するとともに、居合わせた隊員の激励を行った。

群は本訓練で得た成果をさらに進化させて、いかなる状況においても、常続不中断の通信を確保するための訓練を継続していく。



轟音を響かせたFH-70の実射

# 職種のエキスパートとして使命を自覚

## 航空隊・会計隊で新隊員修了式



凛々しく成長した新隊員(航空隊)



見送りを受ける新隊員(航空隊)



修了式で会計隊長から式辞を受ける新隊員



野外訓練中の班長と新隊員の様子(会計隊)

東部方面航空隊は9月15日「令和5年度新隊員後期修了式」を行った。

7月3日から9月15日までの約2カ月半、航空科隊員としての必要な基礎知識及び技能を修得した新隊員は、自信に満ち溢れた凛々しい姿で式に臨んだ。

修了式はご家族、協力団体の来賓者、配置先の部隊長、最先任上級曹長等が見守る中、厳かに執り行われた。新隊員は航空隊長の式辞を受け、部隊勤務における使命を自覚し、教育を修了した。

その後、ご家族及び協力団体の来賓が見守る中、航空隊長以下先輩隊員の盛大な見送りを受け、今まで親身になって教育を行ってくれた基幹要員との別れを惜しんだ。また訪れたご家族は、凛々しく成長した息子たちの姿を目の当たりにし喜んで

新隊員たちは見送りの後、各配置先部隊長に元気づく申告を実施し、それぞれが配置される新たな部隊への希望を胸に新たなステージに前進した。

東部方面会計隊は7月3日から9月6日までの約2カ月間、朝霞駐屯地において第34期新隊員後期課程「会計科」教育を実施した。

本教育は21人の新隊員に対し、方面会計隊副隊長を新隊員教育隊長として4人の基幹要員をもって行った。新隊員たちは会計科隊員としての基礎的知識及び技能を修得する

の別れを惜しんだ。また訪れたご家族は、凛々しく成長した息子たちの姿を目の当たりにし喜んで

ため、日々勉学に励んだ。会計隊長は修了式の式辞において各部隊に配置後、国費を取り扱うという重い任務に就く新隊員に対し「日々成長」「体力の増進」の2点を新隊員に要望し「日々の業務の中で、昨日より今日、今日より明日の自分が成長していることを日々実感できる努力の継続と、いかなる困難な状況においても任務遂行できるように体力を増進することが重要である」と述べた。

各駐屯地へ巣立った若い隊員たちが、本課程で学んだ基礎的事項及び教育間に深めた同期との絆を糧に、各部隊において立派な会計科隊員として活躍することが期待される。

群馬地本

# 総合的な探究の時間 職業インタビューに協力

自衛隊群馬地方協力本部前橋募集案内所は8月25日、県立伊勢崎清明高校の「総合的な探究の時間」において学生による「職業インタビュー」に協力した。

自衛隊に対する職業インタビューは、同校1年生男子2人と女子2人の計4人の生徒が希望し、生徒は「将来、人を助けられる職業に就きたいと考えている。自衛隊について



女性隊員にインタビューする女子生徒

質問は「なぜ自衛隊という職業を選んだか」「仕事のやりがい」「普段の業務内容」「女性隊員ならではの苦労」などであり、対応者は実体験を交えながら丁寧かつ真摯に回答をした。また生徒たちから「自衛隊」という職業について、より理解を深めてもらうため、パンフレット及び映像を使用し、自衛隊の任務、役割及び職務の多様性について分かりやすく説明した。

インタビューは1時間の予定であったが、自衛隊の活動に興味を湧かせた生徒たちは、予定より、さらに多くの質問をしたため、約2時間にも及んだ。

今後、生徒たちはそれぞれインタビューを行った職業について、学校で発表するらしいが「良い記事が書けそうです。他の生徒に自衛隊の魅力を伝えたい」と語ってくれた。



インタビュー後の記念撮影

群馬地本では総合的な探究の時間等の要望があれば、積極的に支援をして、自衛隊の魅力と活動への理解を深めていく。

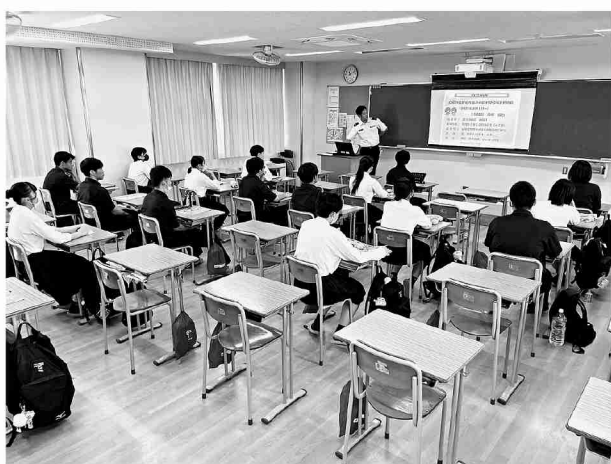
## ある！ある！自衛隊

byともえ



長野地本

# 防衛省の業務と日本の防衛 東海大諏訪高等学校の授業支援



熱心に所長の授業を聞く生徒たち

自衛隊長野地方協力本部茅野地域事務所は9月9日、東海大諏訪高等学校1年生20人に対して「防衛省の業務、国際情勢と防衛政策」について授業支援を実施した。

同校での授業支援は新しい試みであったが、生徒たちにさまざまな社会・経済活動によって日本の平和と独立が成り立っていることを理解してもらえる非常に貴重な機会と捉えて実施した。

当日は防衛省の「まるわかり！日本の防衛」はじめての防衛白書を引用し、特に授業を行う上で「国の防衛と自衛隊の活動について正しく理解をしてもらうこと」「今テマにおいて生徒自らが積極的に質問等を行って参加できること」を念頭に置き行った。生徒たちは熱心に耳を傾けるとともに、それぞれ自らの意見をしっかりと述べて色々と考えを発表してくれたので、非常に有意義な時間を過ごしてもらったことができた。

参加した生徒からは「世界情勢と自衛隊の役割についてたくさん知ることができて良かった」「世界にはさまざまな問題があり、もっと意識してこれら問題に取り組んで行かなければならないと感じた」「自衛隊の『人を助ける』ということが胸に響いた。私も看護師になりたいという夢があるのでこれからの3年間でしっかり悩み自分のやりたい仕事を探して誇りを持って人間になれるよう頑張りたい」等の感想があった。

本支援を通し、少しでも自衛隊及び自衛官としての教育の役に立つことができたらと安堵するとともに、機会を与えてくれた学校関係者、生徒たちに感謝の念を述べたい。

栃木地本

# 夏季インターンシップを開催 大卒人材の確保に向けて

自衛隊栃木地方協力本部は8月28日・29日の両日、海上自衛隊横須賀基地及び武山駐屯地において大学生向け夏季インターンシップを開催した。高卒者の大学等への進学率の推移が上昇する昨



艦長気分で双眼鏡を覗き込む参加者

今の社会情勢において、大学生等に対する広報活動はこれまでになく重要度が増している。栃木地本としても民間企業等との競争の中で優秀な人材を確保するため、大学生向けのインターンシップ

を積極的に開催している。今回の夏季インターンシップでは栃木県内の大学生等8人が参加し、初日は横須賀基地において、掃海母艦「うらが」の細部にわたる説明を受け「うらが」の一般大卒幹部自衛官との懇談では、



予備自衛官補との懇談

ができない艦長席に座って双眼鏡で遠方を眺めた。大きな甲板の上で心地よい潮風に吹かれるなど普段とは異なる非日常的な体験をした。また「うらが」の一般大卒幹部自衛官との懇談では、

参加者からは「さまざまな貴重な体験ができた」「自衛隊がより身近な存在に感じられるようになり、充実した2日間を過ごすことができた」との声があった。

## 訓練所感

中央特殊武器防護隊  
1等陸曹 大場 朝幸



### 支援助教を終えて

私は5月12日から9月1日までの間、第3陸曹教育隊で実施された第18期及び第19期陸曹中級課程の支援助教として勤務しました。当初、部隊から指名された時は、非常に不安が解消されていき

ました。それと同時に私自身もさまざまな学びのある日々でした。ある区隊長は「頭が疲れる」と言っていました。当初はどういう意味だろうと理解しづらかったのですが「人を教える」「人を育てる」といったさまざまなことを経験するようになって、言っていた意味を理解することができました。中曹での教育内容はとてもレベルの高いことを教育しています。「心理的安全性の確保」といった新しい手法を取り入れるなど、常に本属要員の努力と工夫を重ねる姿勢や、教える言葉の選び方に大変参考になる場面が多々あり、私自身勉強になることがたくさんありました。また体調不良やコロナの影響により教育を休むことを余儀なくされた学生に對しても、工夫を凝らした補完教育をする等、誰一人取り残すことのない教育姿勢には、さすが「教育の最前線」と肌で感じました。何かの縁でこの板妻の地に集まった支援助教10人の皆様、着隊当初から温かく迎え入れてくれた上曹中隊の皆様、感謝するところも、ここで学んだこと経験したこと、今後にも職務にまい進する所存です。

# 最先任 上級曹長

## 「コミュニケーションの重要性」 東部方面輸送隊 宮崎 謙太郎 准陸尉



3年12月から東部方面輸送隊第7代最先任上級曹長に上番している宮崎准尉です。隊長統率方針「任務完遂」要望事項「基本を確実に」「仕事の

のりしろは外側に」「家族を大切に」を具現化するため、各中隊等の先任上級曹長と連携を図りながら、日々訓練等にまい進しています。

戦後、最も厳しく複雑な安全保障環境の中、戦い方も従来とは様相が大きく変化してきていま

す。輸送隊は分隊で行動する任務が多く、小部隊戦術行動（SUT）が求められます。分隊長の指

揮のもと、分隊員が常に積極的な行動をとれるよう隊員間の意思疎通「コミュニケーション」が大切と感じています。

私も最先任上級曹長として勤務する中、現場確認等で積極的に隊員とコミュニケーション（メンタルも含む）を図るよう

# 「TRY & ERROR」 第1高射特科大隊 宮下 麻里香 3等陸曹

今月のフェアレディは、アルペンスキーの山梨県代表として団体に4回出場経験もある宮下麻里香3曹です。明るい笑顔の宮下3曹は山梨県富士吉田市の出身、現在は第1高射特科大隊高射中隊の人事陸曹として勤務をしています。

Q1・自衛隊に入隊したきっかけは？  
体を動かすことが好きだったので、体を使って人のために役立つ仕事をしたいと、また自衛官の父と兄に憧れて入隊することを決めました。

Q2・現在の職務は？  
高射中隊で短SAMの指揮官として勤務するほか、中隊の人事陸曹として隊員の給与に係る業務に緊張感をもって頑張っています。

Q3・思い出深い訓練は？  
対空実射訓練です。中隊配置後は事務所での勤務が多く、先輩たちが先に実射訓練を経験している中、4年目で初めて実

射小隊に入ることができました。約4カ月間にわたる訓練の後、実射訓練で要撃に成功した時は、やっと中隊の一員になった気がしました。また高射特科、短SAM操作員として誇りをもつことができました。

Q4・ご自身のモットーと心掛けていることは？  
「TRY & ERROR」です。失敗を恐れて挑戦しなければ、何も成ぬよう、何が原因であっ

# 東方男児 「初志貫徹」 第337高射中隊 清水 快音 陸士長

今月の東方男児は2高群一勢いのあるナイスガイ、清水快音（かなと）陸士長です。清水士長は栃木県宇都宮市出身の20歳で、4年4月に入隊し現在は第2高射特科群第337高射中隊で中SAM

器材の発射手として古河駐屯地にて勤務しています。

Q1・入隊したきっかけは？  
高校2年生の時に災害派遣に従事している自衛官の姿を見て、自分も国民の役に立つ仕事をした

Q2・高射特科を選んだ理由は？  
入隊時の担当広報官に高射特科職種の魅力を教

えていただいたためです。また米国での実射訓練に参加できると聞き、携わりたいと思ったからです。

Q3・自衛隊生活で1番苦勞したこととは？  
群の持続走集合訓練で参加した秩父宮記念富士登山駅伝競走大会です。駅伝では2高群の代表に選ばれ富士山の山頂付近を選手として走りながら途中で転倒しながら

# 「日本一高い場所で 愛を誓う」 第1高射特科大隊 天野 憲太郎 陸士長 第34普通科連隊 天野 唯恋 陸士長

私は第1高射特科大隊の天野士長です。妻は第34普通科連隊で勤務をしています。

私たちが出会いは昨年8月、駒門駐屯地の自動車教習所でした。彼女

にアピールし、すぐ付き合うことになりました。教育も無事に終了し、お互い駐屯地が異なることから、今年1月に入籍しました。

7月に私が師団長伝令として3カ月間臨時勤務することになり、師団長と何気ない会話の中で結婚を挙げていないことを話したところ「富士登山駅伝の視察で山頂に登るから、山頂の富士浅間神社で結婚式を挙げるといいよ」と仰っていたので、はじめて冗談だろうと思っていたのですが「制服のモールを貸してやるから制服を山頂にもっていくようにね」などと、着実に準備が進められました。私も妻に相談したら喜んでくれたので、山頂で結婚式を挙げることにしました。

師団長、師団最先任や司令部所属の幹部・陸曹の方々と一緒に山頂を目指しました。山頂では眼下に雲海が広がり、妻と一緒に眺めていました。お互いに年をとっても

うやうや横に座って時間を過ごせる関係でいいなと思いました。結婚式は師団長、高射特科大隊の3科長、中隊長等参列のもと、粛々と執り行われ、多くの自衛隊関係者や登山客から祝福の声をいただき、神前のみでなく人前での結婚式にもなり、本当に幸せで愛を叫びたいくらいでした。

# 編集後記

つい先日、妻が体調不良で2日ほど寝込んでしまった。普段は妻に、掃除、洗濯、買い物、料理、子供たちの習い事に至るまで家事全般を任せてしまっている私としては「大事である。やむを得ず、夫として父として看病と家事に全力を尽くすことになったのだが、特に（と）つかや（ばり）料理には大苦戦。気合と愛情を込めて作った料理は、次男から「お父さんのごはん、美味しくない」との辛辣なコメント。三男は気を遣って「おなかいっぱい」と早々に戦線離脱。その後、こっそりお菓子をドカ食いしていた次男からのタレコミ。長男に至っては、何かを察知したのか私の料理が得意である前に山盛りの「ふりかけご飯」を独り堪能し、そそくさと自分の部屋に帰ってしまう始末。子供とは、恐ろしいほど正直な生き物である。

回復した妻にその秘訣を尋ねたところ、黄金の献立レパートリーがあり、その日の忙しさに合わせて献立を瞬時に判断し、至短時間で準備するのだとか。さらに「ワタシは、パートの仕事をしながらあの難敵3人を相手にその他の家事もほとんど一人でこなしている」とチクリ。そもそも、にわか家政夫には極めて厳しい任務だったのである。自分の仕事は彼女の支えがあってこそ成り立っている。「母は強し、妻は偉大」である。

野球観戦が趣味で、休日等を利用して友人と球場に野球観戦に行き、リフレッシュしています。好きな球団である横浜DeNAベイスターズを応援団と一丸となって、応援することがとても楽しいです。また冬の時期にはスノーボードに行きます。技を決めた時の爽快感は最高です。

Q5・今後の目標は？  
2点あります。1点目は陸曹となり、さまざまな面で中隊に恩返しをすることです。2点目は中SAM実射訓練に参加し、中隊の目標である日本一獲得に貢献することです。

Q4・休日の過ごし方は？  
も走り切り、練習の成果を発揮できました。駅伝ではチームに貢献するために一生懸命走り、群の目標達成（自衛隊の部15位）に貢献することができました。

Q3・休日の過ごし方は？  
も走り切り、練習の成果を発揮できました。駅伝ではチームに貢献するために一生懸命走り、群の目標達成（自衛隊の部15位）に貢献することができました。

# マイファミリー

「日本一高い場所で愛を誓う」  
第1高射特科大隊  
天野 憲太郎 陸士長  
第34普通科連隊  
天野 唯恋 陸士長



私は第1高射特科大隊の天野士長です。妻は第34普通科連隊で勤務をしています。

私たちが出会いは昨年8月、駒門駐屯地の自動車教習所でした。彼女

にアピールし、すぐ付き合うことになりました。教育も無事に終了し、お互い駐屯地が異なることから、今年1月に入籍しました。

7月に私が師団長伝令として3カ月間臨時勤務することになり、師団長と何気ない会話の中で結婚を挙げていないことを話したところ「富士登山駅伝の視察で山頂に登るから、山頂の富士浅間神社で結婚式を挙げるといいよ」と仰っていたので、はじめて冗談だろうと思っていたのですが「制服のモールを貸してやるから制服を山頂にもっていくようにね」などと、着実に準備が進められました。私も妻に相談したら喜んでくれたので、山頂で結婚式を挙げることにしました。